

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 田中堅一郎 編著 教材名： 『産業・組織心理学エッセンシャルズ 改訂三版』（ナカニシヤ出版，2011年） ISBN:978-4-77-950563-8 2,800円+税</p> <p>(2) 著者名： ベイザーマン，M.H./ ムーア，D.A. 著，長瀬勝彦 訳 教材名： 『行動意思決定論 バイアスの罠』（白桃書房，2011年） ISBN:978-4-561-26563-4 3,800円+税</p> <p>教材1(1)の内容は「仕事への動機づけ」「人事評価制度」「人事測定の方法」「職場の人間関係と意思決定」「職場集団におけるリーダーシップ」「職場のストレスとサポート」「組織における協力と葛藤」「有能感が推進するキャリア発達」「売り手と買い手の心理学」「心理学で用いられる統計の基礎的知識ガイド（特論1）」「産業・組織心理学史（特論2）」から構成されている。 教材(2)は，経営における意思決定について全11章から構成されている。</p>
参考図書	<p>中島義明ほか編『心理学辞典』（有斐閣，1999年）ISBN:978-4-64-100259-3 6,800円+税 下山晴彦ほか編『誠信 心理学辞典 [新版]』（誠信書房，2014年）ISBN:978-4-414-305074 6,264円 高木修 監修，田尾雅夫 編集『組織行動の社会心理学（シリーズ21世紀の社会心理学2）』（北大路書房，2001年）ISBN:978-4-76-282224-7 2,500円+税 ロバート・B・チャルディーニ『影響力の武器 なぜ人は動かされるのか [第三版]』（誠信書房，2014年）ISBN:978-4-41-430422-0 2,700円+税</p>
履修上のポイント	<p>参考図書に示された『心理学辞典』『誠信 心理学辞典 [新版]』をもとに，分かりにくい専門用語を確認したり，心理学関連の他科目も学習することが望ましい。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材1の(1)について，1章から9章，および特論2の各章を要約し，全体についてのコメントを述べること。 <b>留意点：</b>各章を800字以内で要約し，全体についてのコメントを付記すること（合計10,000字以内で収めること）。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材1の(2)について，1章から11章の中から，自分の興味・関心のあるものを1章選び，その章の内容を自分の興味・関心の高い事柄を中心に，3,000字～4,000字でまとめること。 <b>留意点：</b>参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 森下高治ほか 著 教材名： 『クローズアップ メンタルヘルス・安全（現代社会と応用心理学4）』（福村出版，2015年） ISBN:978-4-571-25504-5 2,400円+税</p> <p>本書は，メンタルヘルス，ヒューマンエラー，リスクマネジメントに関して応用心理学の視点から，20のトピックを中心に3章から構成されている。</p>
参考図書	<p>中島義明ほか編『心理学辞典』（有斐閣，1999年）ISBN:978-4-64-100259-3 6,800円+税 金井壽宏『キャリア・デザイン・ガイド』（白桃書房，2003年）ISBN:978-4-56-123386-2 2,100円+税 谷口弘一・福岡欣次『対人関係と適応の心理学 ストレス対処の理論と実際』（北大路書房，2006年） ISBN:978-4-76-282527-9 2,400円+税 坂野雄二 監修『学校，職場，地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル』（北大路書房，2004年）ISBN:978-4-76-282408-1 2,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>基本教材1と内容的には重複している箇所もあるが，内容的には（基本教材1と比べて）やや臨床心理学や安全工学との関連が強い。しかし基本教材1の内容が十分理解されていれば，教材2はさほど晦渋とは感じられないと思われる。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材2の3章を要約し，全体についてのコメントを述べること。 <b>留意点：</b>各節を3000字以内で要約し，全体のコメントを付記すること（合計9,000字以内で収めること）。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材2を構成する20のトピックの中から，自分の興味・関心のあるものを1つ選び，その内容を当該書に示された「引用・参考図書」も参照しながら，3,000字から4,000字でまとめること。 <b>留意点：</b>参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。</p>

科目名	臨床心理学特講	担当者	キクシマ 菊島 カツヤ 勝也	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	臨床心理学実践の中で、教育臨床をとりあげ、子どもに対する臨床心理学的な支援について学習する。特に、発達障害をはじめとした、様々な問題を抱えている子どもに対して、学校場面でどのような支援が行われているかについて焦点をあて、理解を深めることを目的とする。		
到達目標	<p><b>【一般目標 (GIO)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力 異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。</li> <li>○社会に貢献する姿勢 社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。</li> </ul> <p>以上の点を踏まえて、発達障害を持つ子どもに、実際の生活場面でどのような困難やつまずきが生じるのか、具体的なイメージを持てるようになること。</p> <p><b>【行動目標 (SB0s)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら学ぶ ・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。</li> <li>○自ら考える ・論理的・批判的思考力 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 ・問題発見・解決力 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</li> <li>○自ら道をひらく ・挑戦力 あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。 ・コミュニケーション力 他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。 ・リーダーシップ・協働力 集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。 ・省察力 謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる</li> </ul> <p>以上の行動を通じて、困難を抱える子どもに対して、どのような支援ができるのか理解を深めること。</p> <p><b>【準備学修項目と準備学修時間】</b></p> <p>発達障害を持つ子どもにこれまで関わる機会の無かった方は、なるべく具体的なイメージを持っていただきたい。一般向けの本などもたくさん出ているので、それらをあたることも助けとなると思われる。1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>		
学修方法	<p><b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b></p> <p>manaba folioを使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p><b>【学修方略 (LS)】</b></p> <p>教材を読み、下記のリポート課題についてリポートを作成する。疑問が生じた場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑する。</p>		
スケジュール	基本教材1のリポート課題(1)(2)を終了後、同じく基本教材1のリポート課題(3)(4)を作成する。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	リポート	100%	課題及び教員からの指導に対して、適切な内容がまとめられていること。また、それに対する、独自の意見や疑問が記述されていること。
	平常評価		
履修者への要望			